

平成28年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について

津山市立 大崎小学校

教育目標(めざす児童生徒像)

- 1 健康でねばり強い子どもを育てる。
- 2 自分で考え、すすんで実行する子どもを育てる。
- 3 美しいものにあこがれ、だれとでも仲よく助け合う子どもを育てる。

今年度の指導の重点

- 1 心身ともに健やかな子どもを育てる。  
・自己肯定感、自尊感情を育てる。 ・健康な体で、ねばり強い心を育てる。
- 2 基礎学力の定着を図り、自ら考える子どもを育てる。  
・学習規律、読み・書き・計算の定着。 ・感動体験、成就感、達成感を味わわせる。
- 3 自らを律し、助け合う子どもを育てる。  
・きまりを守って人に迷惑かけずに生活できる。 ・協働の喜びを味わわせ、主体性・実践力を育成する。

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

【学力状況調査の結果】

- 国語A・B、算数A・Bとも、県平均と比べると正答率がかなり低い。国語Aは、昨年度の調査より低くなり、県平均との差がついた。国語Bは、少し改善されたがまだ県平均との開きがある。算数Aについても昨年度よりも県平均との差が開いており、基礎的な力に課題がある。
  - 国語Aの「書くこと」の領域については、県平均よりも低く、「書く能力」に課題がある。国語Bはどの領域も低いが、「話すこと・聞くこと」の県平均との差が大きく、まだまだ改善されていない。
  - 算数Aの結果を領域別に比べると、「数量関係」の領域の正答率が低く、他の領域も県平均よりも低い。
  - 算数Bの結果を領域別に比べると、「数と計算」の正答率が低い。評価の観点で見ると、「知識・理解」の正答率が県平均との差が一番大きい。算数A・Bともに改善にはなっていない。
- 8㎡に14人座っているシートについて、1㎡当たりの人数を求める式を書く。本校40% (全国70%)  
○漢字の読み「快晴」。本校90%(全国79.3%) ローマ字「りんご」。本校60%(全国53.2%)  
○漢字を書く「そうだん」。本校16.7%(全国64.2%)

【学習状況調査の結果】

- 平日、1日あたりのテレビやビデオ・DVDの視聴時間(4時間以上)の割合は、県平均の倍を超える高さである。
  - 平日、1日あたりのテレビゲームをする時間(1時間以上)の割合も、県平均と比べると高い傾向にある。
  - 家庭での学習時間は、1時間以上する児童の割合は県平均よりも低く、全体の児童の約半数である。  
ただし、土日の学習時間は、1時間以上する児童が県・全国平均よりも高い。
  - 1日あたりの読書をする時間(30分以上)は、県平均よりやや低い。全く読まない児童が3割おり、読書の習慣が身に付いていないと考えられる。
  - 「国語の勉強が好き」に当てはまる児童は、県平均よりも高い。
  - 「算数の勉強が好き」に当てはまる児童は、県平均よりも高い。
  - 「学校の行くのは楽しい」と思っている児童は、全国平均よりもやや高い。
  - 「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかった」と思っている児童は県平均に比べて低い。
  - 「自分には、よいところがある」と思っている児童の割合は、県平均に比べて低い。
  - 「難しいことでも挑戦する」児童は県平均よりも低く、「ものごとをやり遂げてうれしかった」児童も、低い。成功体験を積み、さらに次に挑戦するエネルギーが今一つと考えられる。
- 家庭学習を1時間以上している。→ 本校53.3%(県平均68.6%)  
土日に1時間以上 → 本校66.7%(県平均56.3%)  
○自分によいところがある。→ 当てはまる 本校20.0%(県平均37.3%)  
○ものごとを最後までやり遂げて、うれしかった。→ 当てはまる 本校50.0%(県平均73.7%)

成果と課題

- 国語、算数、ともに、基礎基本の学力が十分習得できていない。国語Aは、昨年度より7ポイント、国語Bは、-3ポイントと正答率が下がっている。算数A・算数Bは、昨年度とそれほどの差は認められない。
- 国語、算数ともに、活用型の問題を苦手としている。解答に至るまでに、質問の条件提示などを理解できないまま臨んでいる。
- 「国語が好き」「算数が好き」に当てはまる児童は、どちらも県平均を超えている。その気持ちを大事にして、基礎的な力をつけ、自信を持たせるようにしていく。
- 自己肯定感や規範意識の低い児童が多い。また、善悪の判断ができにくいと感じられたり、周りの人や社会に目を向けることができにくいと思われる児童がまだ多い。
- 読書時間が少ない児童(10分より少ない)や読書をしていない児童の割合が5割を超え、昨年より低下している。

課題に対応した改善方法

- 学習内容・時間の確保と確認の徹底。最低学力保障として「大崎自律プログラム」に全校で取り組む。各学年で早めの漢字習得学習を行い大崎漢字を行う。またかけ算九九、47都道府県覚え、歴史人物65人覚え、なわとび二重跳び50回、鉄棒逆上がりなど学力・体力向上を行う。
- キャリア教育を意識し、なりたい自分を考え、そのために今がんばる目標を持たせる。また、ふりかえりをする中で、自分の成長を意識させたり、次の目標に挑戦する力を身につけさせる。そのために『変心カード』を定期的に記入させる。
- 運動会等の学校行事を通して、高学年の活躍する場を増やし全体の場で認めることで、リーダーシップの育成を図るとともに、リーダーを支えるフォロアーの育成も図る。
- 朝学習やすきま時間に、問題データベース等を活用して多くの問題に取り組むことで、特に基礎的な学力の底上げをしていく。
- 津山市教委より授業改善の視点(提案①～③)を授業に取り入れ、導入の工夫や展開の中で児童同士の話し合い活動の充実、終末での学んだことや自分の考えをノートに書くことなどを行っていく。
- 多めの宿題や進んで行う自主学習、予習の手引きなど配布し、家庭学習の充実を図る。また、読書の時間を充実させるために「読書

取組の検証方法及び検証時期(2学期末及び年度末)

- 児童への学力テスト(県たしかめテスト→2学期10月中旬、NRTテスト→3学期2月中旬)の実施。
- 児童へのQ-Uテストの実施(2学期10月、3学期2月)
- 「読書が好きか」「家庭学習の時間」「テレビ・ビデオの視聴時間」の調査を学期末ごとに実施する。
- 上記の結果を受けて、改善方法の見直しを図る。

各校の具体的な達成目標(数値目標等)

- 「国語や算数の勉強が好き」に当てはまると答える児童の割合を45%以上にする。
- 「読書が好き」に当てはまると答える児童の割合を50%以上にする。
- 家庭学習時間(1時間以上)の割合を60%以上にする。
- 学力テスト(NRT)の全校正答率の目標値を国語・算数ともに52(H29.2実施)以上を目指す。(H28.2は50.7)
- Q-Uテストで要支援群の半減と全校児童の満足群目標値50以上を維持する。(H28年度5月は51.1)